

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 10 月 21 日現在

機関番号：17701

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2015

課題番号：24720100

研究課題名(和文) 近世後期・近代初期における薩摩藩の文事および薩摩人脈の解明

研究課題名(英文) The elucidations of Satsuma literary in the end of Edo period and the beginning of the Meiji period

研究代表者

亀井 森 (kamei, shin)

鹿児島大学・法文教育学域教育学系・准教授

研究者番号：40509816

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は近世後期から幕末・近代初期における文芸の中で特に和歌に焦点を絞り、京都の堂上家と島津家との関係を一つの軸とする和歌史を解明し、京坂の歌壇から近代初期の御歌所へと繋がる薩摩藩歌人の文事・教育・人脈を解明することを目的とした。

成果としては『長澤伴雄自筆日記』第1巻、第2巻(亀井森編、台湾大学図書館)および『井上文雄判 柳河藩歌合集』(亀井森編、柳川古文書館)を刊行して、学界へ資料を提供した。

研究成果の概要(英文)： This study focuses on especially waka in the literature in the Edo period, early modern, to elucidate the waka history in the relationship between the Shimazu and Dojo. And the purpose is to elucidate the literary, education, and personal connections of the Satsuma clan poet leading to early Outadokoro.

Volume 1 "Tomoo Nagasawa autograph diary" is as a result, Volume 2 (Kamei Shin, Taiwan University Library) and "Fumio Inoue Yanagawa clan poetry contest Collection" (Kamei Shin, Yanagawa Archives) was published, It provided the material to the academic community.

研究分野：近世文学

キーワード：国学 和歌 長沢伴雄 薩摩藩 台湾大学

1. 研究開始当初の背景

幕末および明治政府における薩摩藩の果たした役割は、政治・実業の側面からの研究が非常に進んでいる。ところが薩摩藩が和歌・歌人人脈を通じて幕末の宮廷に入り込んでいたことはあまり指摘がなされていない。さらに維新後の宮中・天皇周辺における歌壇勢力として機能した「御歌所」にも薩摩出身の歌人たちが深く関わってきたことは、政治経済・実業における研究の深度に比すれば、その研究は進んでいないといえる。つまり幕末から明治初頭にかけて薩摩藩が果たした役割を考えた時、現在の状況は文事・文芸・教育史への目配りが十分でない、バランスを欠いたものとなっているのである。

そこで本研究ではまず京都の堂上家と薩摩藩・島津家を一つの軸とする和歌史を解明する。そのために薩摩藩京都留守居役を務めた山田清安や八田知紀・高崎正風(たかさきまさかぜ)を研究の柱として、鹿児島県立図書館・鹿児島大学玉里文庫・宮内庁書陵部・天理大学および東京大学島津家文書等を調査して、彼らが如何にして宮中深く入り込もうとしたのかを解明する。(研究の目的1)

また紀州藩国学者の長沢伴雄(ながさわともお)は京都の堂上サロンに出入りしていた人物であり、その旧蔵書が現在台湾大学に収められている。応募者は平成16年より台湾大学所蔵長沢文庫の調査を行ない、科研費補助金(「幕末京坂文壇の諸相解明 台湾大学「長沢文庫」・東京大学「本居文庫」調査を中心に」、基盤研究C、平成20~23年度)を受け、新出資料として『長沢伴雄歌文集 絡石の落葉』(亀井森編、全3冊731頁、台湾大学図書館、平成20、21年)を刊行した。

この調査の過程で約25年間にわたる長沢伴雄自筆日記24冊の重要性が明らかとなった。本研究では24冊の活字化刊行を目

的とする(研究の目的2)。

近世後期の国学者であった長沢伴雄は公務によって江戸・京・大坂・和歌山と移動・滞在を繰り返しており、この日記群には天保から弘化・嘉永期(1830~54)にわたる、日々の学問や文人との交流が克明に書き残されている。前述した薩摩藩文事や京都歌壇に関する記述も多く、この1と2の柱は相互に関連し情報を補完し合うものである。すなわち本資料は近世後期の学芸史の一側面を記録した資料であり、日記の出版によって新しい視座・情報を提供できると考えている。すでに平成22年9月28日付で応募者は台湾大学と出版契約を締結し、国内における作業用として、同大学から特別に日記の画像資料の提供を受けた。

2. 研究の目的

応募者は平成22年10月に鹿児島大学教育学部へ着任し、新たな研究の柱として、わが国近代の形成に深く関与した薩摩藩の事蹟のなかで、従来、等閑視されていた文事の解明に取り組むことを決意した。

本研究は近世後期から幕末・近代初期における文芸の中で特に和歌に焦点を絞り、京都の堂上家と島津家との関係を一つの軸とする和歌史を解明し、京坂の歌壇から近代初期の御歌所(おうたどころ)へと繋がる薩摩藩歌人の文事・教育・人脈を解明することを目的とする。この解明によって、従来、政治・経済史偏重の傾向にある鹿児島県における教員養成教育を是正し、調和のとれた学校教育に資することができると考えている。さらに薩摩藩文人と深く関係していることが明らかになりつつある新資料として、台湾大学図書館所蔵『長沢伴雄自筆日記』24冊を公刊し、広く研究者の利用することに供し、当該研究に新展開をもたらすことを目的とする。これらの研究目的を達成するために以下の具体的な2つの柱を設定した。

1. 幕末・近代和歌史における薩摩藩の文事・教育の研究

2. 台湾大学図書館長沢文庫蔵『長沢伴雄自筆日記』の公開

3. 研究の方法

本研究の目的を達成するために、具体的な研究計画として下記の3つの柱を設定した。

幕末・明治初期薩摩藩出身歌人の伝記・文事の解明

幕末京都歌壇・国学サロンにおける薩摩藩歌人の位置付け

台湾大学図書館長沢文庫蔵『長沢伴雄自筆日記』の公開（5か年計画）

鹿児島では主に に関わる薩摩藩士の事跡や伝記資料を収集する。東京では同様に実地踏査と宮内庁書陵部・東大史料編纂所において文芸資料・日記・書簡等の書誌調査・精査を行う。関西地方の調査では天理大学附属天理図書館所蔵の高崎正風関係資料、京都において堂上家の旧蔵資料をを調査する。これらによって近世・近代の文芸における連続性を明らかにする。

また 国立台湾大学図書館蔵の『長沢伴雄自筆日記』公開のための原本確認を行う。

平成24年度の計画

平成24年度は と について注力して調査を行う。まず について、すでに予備調査を終えており、鹿児島県立図書館・鹿児島大学玉里文庫および玉里島津家資料（鹿児島県歴史資料センター黎明館寄託）の資料精査を重点的に行う。特に鹿児島県立図書館所蔵の『高崎正風伝』（坂田長愛編、和装、成立年不明）は従来の研究では使われておらず、資料性も含めて検討する。また地の利を生かして県内に散在する薩摩藩出身歌人（山田清安・八田知紀・高崎正風）の足跡をたどり、またご子孫が所蔵するの未発表資料についても調査を行い、伝記研究の基礎資料を収集

する。

次に東京では同じく薩摩藩出身歌人の足跡を追うとともに、明治初期の宮中における御歌所に関しては、宮内庁書陵部蔵の資料を主として収集する。前述した高崎正風の公務の日記である『進退録』、歌論や文事をうかがうことができる『伊気留志留志（千草の花）』（6冊、明治11年）を中心に原文にあたり精査する。さらに東京大学島津家文書・東大史料編纂所維新史料などにも書簡・関係資料が所蔵されており、東京での調査は1回（3泊4日、25年度以降2回）、応募者単独で行う。そのための国内旅費および資料複写などを主な必要経費として計上する。東京での調査が計画通りに進行しない場合は、マイクロフィルム等の複写を利用して鹿児島で研究を行う。

として掲げる『長沢伴雄自筆日記』の公開については、23年度末にすでに第1巻を刊行しており、24年度は第2巻を刊行する。本資料集の出版は約25年におよぶ国学者の自筆日記の出版であり、これによって学界に新資料・新視座を提供することが可能となる。全24冊を5巻に分けて活字化する。出版・印刷にかかる費用は台湾大学側が負担するが、現地での原本確認が不可欠なため年間1回（7泊8日、最終年度は2回）の台湾大学での調査を行う。そのための外国旅費を主な必要経費として計上する。

先に刊行した長沢伴雄歌文集『絡石の落葉』と併せ、従来知られていないこれらを活字化・公開することは幕末の国学史の人物交流・情報ネットワークを明らかにすることができ、ひいては和歌・文学史研究においても大きな影響を与えている。

台湾大学での現地調査は9月に行うが、計画通りに調査が行えない場合は、次善の策として台湾大学図書館より特別に提供された日記の画像資料による国内作業で代替する。

研究成果の公表について

研究成果の公表の方法として以下の方法を準備している。

・新出資料・論文：『長沢伴雄自筆日記』第2巻を刊行し、学界共通の資料として利用の便をはかる。また日記や現地調査から得られた知見を基に近世学会等で口頭発表を行い、「近世文藝」（日本近世学会編）へ論文を投稿する。

・インターネット：応募者が平成18年より作成しているWeblog「近世後期文壇研究階梯」（平成23年10月現在、16000アクセス）において調査の途中経過および調査によって得られた新見を公表する。

平成25年度以降の計画

平成25年度は の関西における調査を重点的に行う。まず天理大学附属天理図書館に収められる『高崎正風日記』（7冊写、明治43年）および『高崎先生詠草』（31冊写、明治11～35年）は薩摩藩人脈や文事・教育を窺うことのできる第1級の資料であるが、先行研究においては取り上げられる事が少なく、本研究によって近代和歌史研究へ新資料を提供することができると考えている。

さらに薩摩藩の京都における文事および千種有功を中心とした国学サロンの形成について調査・資料収集を行う。京都での調査は旧家が多く、調査を始めるまでの交渉に時間がかかる場合があるが、その場合は平成14年に京都市歴史資料館に寄託された山本家資料を調査する。山本家資料は近世後期京都の歌人賀茂季鷹（かものすえたか）旧蔵資料で、約1300点が確認されている。賀茂季鷹は上賀茂神社社家で千種有功のサロンにも出入りしており、千種有功の文事を側面から浮き彫りにすることが可能である。上記資料館所蔵の該当資料についてはすでに予備調査を実施している。実地踏査は年間2回各3泊4日で応募者単独で行う。そのための

国内旅費および資料複写などを主な必要経費として計上する。

26年度以降は引き続き の作業を継続して行い、24・25年度に得られた知見を基に薩摩藩が近世後期から近代にかけて文芸・学芸において果たした役割を解明する。また27年度以降の計画として、「近世後期・近代初期における薩摩藩の文事」（仮題）と題する研究報告書を刊行する。その内容については近世・近代の連続性という新しい視座から薩摩藩の文事を通観し、従来あまり使われなかった国内の資料や国外の新資料を使ったオリジナルな研究報告とする。

本研究を遂行する上での具体的な工夫
長沢伴雄自筆日記活字化作業について

日記は他人への公開を前提としていないため、文字の解読は非常に困難な作業である。また内容的にも人物関係・国学思想・歴史・有職故実など多岐にわたり、専門性もより高くなっている。そこで応募者を主編として難読文字等の解読には高橋昌彦福岡大学教授に助言を受け、資料の正確性を確保する。

研究を遂行するための研究体制

本研究は基本的に応募者一人で行うが、京都における調査・資料収集の際、旧華族家への紹介等を近世後期の京都を中心に研究している盛田帝子氏（相愛大学非常勤講師）に依頼する。

4. 研究成果

本研究は近世後期から幕末・近代初期における文芸の中で特に和歌に焦点を絞り、京都の堂上家と島津家との関係を一つの軸とする和歌史を解明し、京坂の歌壇から近代初期の御歌所へと繋がる薩摩藩歌人の文事・教育・人脈を解明することを目的とした。

成果としては『長沢伴雄自筆日記』第1巻、第2巻（亀井森編、台湾大学図書館）および『井上文雄判 柳河藩歌合集』（亀井森編、柳川古文書館）を刊行して、学界へ資料を提供した。

これによって従来等閑視されてきた薩摩の歌壇と京都のつながりを再確認し、鹿児島に赴任した教員としての最低限の知識と材料を得る事ができた。当然ながら課題も明らかとなり、今後の課題として解決していきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 4件)

1 亀井森「『直養漫筆』断章」(『中野三敏先生傘寿記念文集 雅俗小径』, 雅俗小径刊行会編, pp.69-74, 査読無, 平成 27(2015)年 12月)

2 亀井森「長澤文庫解題」(『國立臺灣大學圖書館典藏「長澤文庫」解題目録』, 高橋昌彦主編, 臺灣大學特蔵文庫目録 4、平成 25(2013)年 10月, pp9-14, 國立臺灣大學圖書館)

3 亀井森「紀州藩蔵書形成の一側面 伴信友と長沢伴雄」(「アジア遊学」155号, pp.180-189, 勉誠社, 査読無, 平成 24(2012)年 7月)

4 亀井森「近世後期『枕草子』研究一斑」(「雅俗」第 11号, pp.30-44, 雅俗の会, 査読有, 平成 24(2012)年 6月)

[学会発表](計 1件)

亀井森「古典籍のトランスナショナル 国立台湾大学図書館特蔵組の試み」

(第 4 回日台アジア未来フォーラム「東アジアにおけるトランスナショナルな文化の伝播・交流 文学・思想・言語」 於台湾大学文学院講演ホール, 平成 26(2014)年 6月 23日)

[図書](計 3件)

1 (単著)『國立臺灣大學圖書館典藏 長澤伴雄自筆日記』第 2 卷(刊行予定)

(亀井森編、200 ページ、台湾大学典藏全文

刊本 4、国立台湾大学図書館、平成 28(2016)年 8月)

2 (単著)『井上文雄判 柳河藩歌合集』(亀井森編、380 ページ、柳川文化資料集成第一集、柳川市史編集委員会、平成 28(2016)年 3月 31日)

3 (単著)『國立臺灣大學圖書館典藏 長澤伴雄自筆日記』第 1 卷

(亀井森編、180 ページ、台湾大学典藏全文刊本 4、国立台湾大学図書館、平成 25(2013)年 10月)

[産業財産権]
出願状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]
ホームページ等
Weblog「近世後期文壇研究階梯」

6. 研究組織

(1) 研究代表者

亀井 森(KAMEI, Shin)
鹿児島大学・法文教育学域教育学系・准教授

研究者番号: 40509816